



平成 20 年 8 月 27 日

各 位

会 社 名 株式会社デジタルガレージ
代 表 者 名 代表取締役 CEO 林 郁
(J A S D A Q ・ コード 4 8 1 9)
(URL <http://www.garage.co.jp/>)
問 い 合 せ 先 取 締 役 経 営 管 理 本 部 長
櫻 井 光 太
T E L 0 3 - 5 4 6 5 - 7 7 4 7

**当社と株式会社イーコンテクストの合併及び当社グループ再編に伴う
特別利益の計上（個別）
並びに平成 21 年 6 月期第 2 四半期累計期間（連結・個別）及び
通期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ**

当社は、本日付「株式会社デジタルガレージと株式会社イーコンテクストの合併に関するお知らせ」で発表いたしましたとおり、当社と当社連結子会社である株式会社イーコンテクスト（以下「イーコンテクスト」）は、本日開催の両社取締役会において、平成 20 年 10 月 27 日を効力発生日として、当社を存続会社、イーコンテクストを消滅会社として吸収合併することを決議し、吸収合併契約を締結いたしました。

また、本日付「グループの再編に伴う合併及び子会社に係る会社分割に関するお知らせ」で発表いたしましたとおり、本日開催の取締役会において、当社を存続会社、当社の 100%子会社である株式会社 DG ソリューションズ並びに DG ソリューションズの 100%子会社である株式会社ディージー・アンド・アイベックス（以下「ディージー・アンド・アイベックス」）、株式会社クリエイティブガレージ及び株式会社 DG メディアマーケティング（以下「DG メディアマーケティング」）を消滅会社とする吸収合併をすることを決議し、吸収合併契約を締結いたしました。なお、これと同時に DG メディアマーケティング及び DG ソリューションズの 100%子会社である株式会社創芸（以下「創芸」）は、本日開催の取締役会におきまして、DG メディアマーケティングの e マーケティング事業に関する権利義務を創芸に承継させる吸収分割契約を締結いたしております。

これらに伴い、特別利益（いわゆる合併差益である「抱合せ株式消滅差益」）を計上する見込みとなりましたのでお知らせいたします。

また、これとともに、平成 21 年 6 月期（平成 20 年 7 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日）の業績予想について、平成 20 年 8 月 14 日付当社「平成 20 年 6 月期決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 抱合せ株式消滅差益（特別利益）の計上見込みについて

上記のとおり、当社が当社子会社を吸収合併することに伴い、個別財務諸表におきまして約 280 百万円の抱合せ株式消滅差益（特別利益）を吸収合併契約の効力発生日である平成 20 年 10 月 27 日に計上する見込みとなりました。

2. 平成 21 年 6 月期 連結業績予想の修正等

(1) 第 2 四半期累計期間（平成 20 年 7 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回予想 (A)	19,000	1,050	900	△500
今回修正 (B)	19,000	1,050	900	△400
増減額 (B-A)	0	0	0	100
増減率	0.0%	0.0%	0.0%	—

(2) 修正理由

売上高につきましては、増減は見込んでおりません。

営業利益および経常利益につきましては、以下のとおりです。

イーコンテクストの吸収合併に伴い約 700 百万円のものれの発生を見込んでおります。

当該のものれの償却額が上期に約 10 百万円発生いたしますが、一方で本合併及び当社グループ再編に伴い、間接経費等の削減がほぼ同額見込まれますので、営業利益および経常利益は前回予想どおりとなる見込みです。

四半期純損失の減少の主な理由は、以下のとおりです。

当初、当社は税引前四半期純損失を見込んでおりましたので、被合併会社の税引前四半期純利益と相殺することにより税金費用が約 60 百万円減少する見込みです。

また、イーコンテクストを吸収合併することにより、連結上、少数株主利益の流出がなくなりますので、その結果四半期純利益が 40 百万円増加する見込みです。前回予想の四半期純損失 500 百万円は 100 百万円改善し、400 百万円の四半期純損失となる見込みです。

(3) 通期（平成 20 年 7 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	42,000	3,500	3,200	100
今回修正 (B)	42,000	3,500	3,200	400
増減額 (B-A)	0	0	0	300
増減率	0.0%	0.0%	0.0%	300.0%

(4) 修正理由

売上高につきましては、増減は見込んでおりません。

営業利益および経常利益につきましては、以下のとおりです。

イーコンテクストの吸収合併に伴い約 700 百万円のものれの発生を見込んでおります。

当該のものれの償却額が通期で約 50 百万円発生いたしますが、一方で本合併及び当社グループ再編に伴い、間接経費等の削減がほぼ同額見込まれますので、営業利益および経常利益は前回予想どおりとなる見込みです。

当期純利益の増加の主な理由は、以下のとおりです。

当初、当社は税引前当期純損失を見込んでおりましたので、被合併会社の税引前当期純利益と相殺

することにより税金費用が約 200 百万円減少する見込みです。

また、イーコンテクトを吸収合併することにより、連結上、少数株主利益の流出がなくなりますので、その結果当期純利益が 100 百万円増加する見込みです。当期純利益は前回予想の 100 百万円から 300 百万円増加し、400 百万円となる見込みです。

(5) ご参考：前期の実績（平成 19 年 7 月 1 日～平成 20 年 6 月 30 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期（7/1～12/31）	19,093	△181	△287	△884
通期（7/1～6/30）	39,582	△172	△375	△2,430

3. 平成 21 年 6 月期 個別業績予想の修正等

(1) 第 2 四半期累計期間（平成 20 年 7 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高（注）	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回予想（A）	50	△300	△400	△400
今回修正（B）	1,500	△180	△280	0
増減額（B-A）	1,450	120	120	400
増減率	—	—	—	—

（注）平成 20 年 8 月 14 日付当社「平成 20 年 6 月期決算短信」におきましては、当社は純粋持ち株会社ですので「営業収益」と表記しておりますが、当社は本合併及びグループ再編後は事業持ち株会社となりますので「売上高」と表記しております。

(2) 修正理由

売上高の増加の主な理由は、以下のとおりです。

吸収合併の効力発生日が平成 20 年 10 月 27 日ですので、上期におきましては被合併子会社におきまして当初見込んでおりました平成 20 年 11 月から 12 月までの売上高 1,450 百万円が増加する見込みです。

営業損失および経常損失の改善の主な理由は、以下のとおりです。

イーコンテクトの吸収合併に伴い約 700 百万円ののれんの発生を見込んでおります。また、ディー・アンド・アイベックスの吸収合併に伴い、あらたなのれんの発生はありませんが、すでに連結上において計上しておりましたのれん約 3,000 百万円を個別上計上することを見込んでおります。

当該のれんの償却額が上期に約 40 百万円発生する見込みです。

一方で、被合併子会社におきまして当初見込んでおりました平成 20 年 11 月から 12 月までの営業利益、経常利益ともに 160 百万円が個別財務諸表上増加する見込みとなります。

それらの結果、営業損失および経常損失は 120 百万円改善し、前回予想の△300 百万円、△400 百万円から、それぞれ△180 百万円、△280 百万円となる見込みです。

四半期純損失の減少の主な理由は、以下のとおりです。

上記のとおり経常損失の減少 120 百万円に加え、吸収合併に伴い 280 百万円の合併差益の発生を見込んでおります。その結果、前回予想の四半期純損失 400 百万円は 400 百万円改善し、四半期純利

益はゼロとなる見込みです。

(3) 通期（平成 20 年 7 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	110	△540	△750	△750
今回修正 (B)	5,500	0	△230	50
増減額 (B-A)	5,390	540	520	800
増減率	—	—	—	—

（注）平成 20 年 8 月 14 日付当社「平成 20 年 6 月期決算短信」におきましては、当社は純粋持ち株会社ですので「営業収益」と表記しておりますが、当社は本合併及びグループ再編後は事業持ち株会社となりますので「売上高」と表記しております。

(4) 修正理由

売上高の増加の主な理由は、以下のとおりです。

吸収合併の効力発生日が平成 20 年 10 月 27 日ですので、通期におきましては被合併子会社におきまして当初見込んでおりました平成 20 年 11 月から平成 21 年 6 月までの売上高 5,390 百万円が増加する見込みです。

営業損失および経常損失の改善の主な理由は、以下のとおりです。

イーコンテクストの吸収合併に伴い約 700 百万円ののれんの発生を見込んでおります。また、ディー・アンド・アイベックスの吸収合併に伴い、すでに連結上において計上しておりましたのれん約 3,000 百万円を個別上計上することを見込んでおります。

当該のれんの償却額が通期で約 180 百万円発生する見込みです。

一方で、被合併子会社におきまして当初見込んでおりました平成 20 年 11 月から平成 21 年 6 月までの営業利益 720 百万円、経常利益 700 百万円が個別財務諸表上増加する見込みとなります。

それらの結果、営業損失は前回予想の 540 百万円から 540 百万円改善し、営業利益はゼロとなる見込みです。また経常損失は前回予想の 750 百万円から 520 百万円改善し、230 百万円の経常損失となる見込みです。

当期純損失の改善の主な理由は、以下のとおりです。

上記のとおり経常損失の減少 520 百万円に加え、吸収合併に伴い 280 百万円の合併差益の発生を見込んでおります。その結果、前回予想の当期純損失 750 百万円は 800 百万円改善し、当期純利益は 50 百万円を計上する見込みです。

(5) ご参考：前期の実績（平成 19 年 7 月 1 日～平成 20 年 6 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期（7/1～12/31）	209	△275	△352	△420
通期（7/1～6/30）	290	△617	△781	△1,228

以上